



第2回GCOE教育セミナー

区画防火の重要性と施工管理上の諸問題

－区画防火と外壁の上階延焼防止のあり方－

日 時:2012年5月28日(月) 14:00～17:15 (13:30開場)

場 所:東京理科大学 森戸記念館 第1フォーラム (定員108名)

〒162-0825 東京都新宿区神楽坂4-2-2 Tel: 03-5225-1033

(JR飯田橋駅徒歩10分 <http://www.tus.ac.jp/facility/morito/>)

※入場無料 要予約 (次頁申込書あり)

区画防火の重要性と施工品質管理の諸課題について、特に層間区画における区画貫通部や外壁の上階延焼に焦点を当て、その延焼防止のあり方について情報交換を行うと共に諸課題や問題点について議論する場を提供する。

【プログラム】

13:30	開場	司会 棚池 裕 (総合研究機構火災科学研究センター)
14:00	開会挨拶・主旨説明	菅原 進一 (総合研究機構火災科学研究センター)
14:20	防火区画における防火措置の法整備の現状と課題 －高層建築物の地震後の火災安全対策技術の重要性－	成瀬 友宏 (国土交通省国土技術政策総合研究所 建築研究部 防火基準研究室)
14:45	防火区画における防火措置の性能評価・性能試験の現状と課題	西田 一郎 (一般財団法人建材試験センター性能評価本部)
15:10	層間区画における上階延焼の危険性	大宮 喜文 (理工学部建築学科)
15:35～15:55	----- 休憩 -----	
15:55	高層建築物の上階延焼防止と耐火設計	池田 憲一 (総合研究機構火災科学研究センター)
16:20	欧米の防火区画における防火措置の法制度と認証システムについて －防火措置における性能評価と品質管理体制－	ヘルマツト・ハゼルマイヤー (ヒルティコーポレーション)
16:45～17:15	パネルディスカッション	
17:30～19:30	懇親会 (東京理科大学森戸記念館第3会議室) 参加費:無料	

主 催:東京理科大学総合研究機構 火災科学研究センター 協 賛:日本ヒルティ株式会社
問い合わせ、申し込み先: Tel:04-7124-1501 (内線 5036 研究事務課) Fax:04-7123-9763

～ 最近の高層建築の火災のほとんどはボヤ火災で終わっているが、ボヤが拡大したときに約5%は様々な影響でスプリンクラーが効かない可能性が指摘されており、高層建築の防火区画損壊による同時多発火災も懸念されている。

建物の耐震設計という観点からの構造設計の概念は日本と欧米で異なる部分が存在するが、可燃物の種類や量が国によって大きく異なることはなく、その燃焼性状も変わらないため、防火設計は万国共通であり、海外の火災事故は日本にとって教訓となる。特に、高層建築で最も重要であるのが上階延焼を防止するための層間区画であり、上階延焼で最も危険な事象は窓などの開口部からの噴出火災による上階延焼である。また、層間区画には、外壁と床との隙間である層間塞ぎ部分からの上階延焼や、床を通しての設備部材の防火区画貫通部の隙間からの上階延焼の可能性もあり、注意を喚起する必要がある。～